



蘇漢陸集

二

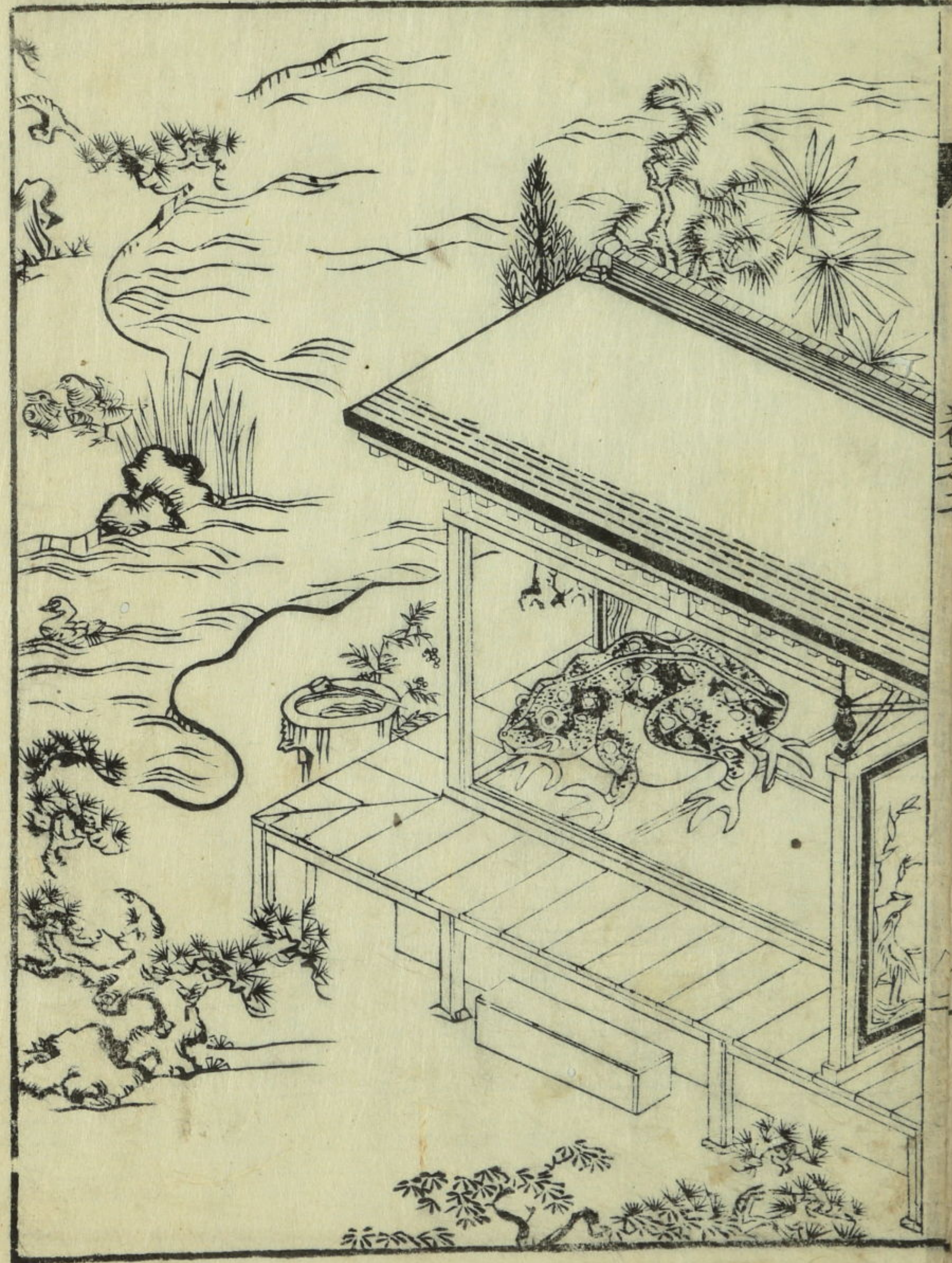
文
4
14y
2





勝元飛龍乃書院として方丈としたり。このゆゑに造
 化の神よのほ杯の方丈といふれつと勝元を夏指杯
 天下と傾けられ。私よ大船と大明國はけり。社殿
 畫圖是材縮帛乃類。どくの珠和とるりてめて
 袖系より。その時の私乃物指。大船乃材木。そはく
 ころとけ。新安守善法の特引割て方丈の板床せ
 せらる。そのゆゑに。まことふ。條地堅密の床
 床より。和虫のふよ下よわくは。いひ方丈の茶よ藥
 山とかま。樹木と極。茶よ大よな。はわり。是ハ指え
 ころころの。度狭と括圖。そ。氣打りり。く。響
 軍よふよとなり。水よ。大。免。雁。響。響。不。得。わ。よ。し。き

わる。び。勝。元。飛。龍。乃。書。院。と。し。て。方。丈。と。し。たり。古。人。乃
 緑。樹。新。造。して。は。夏。木。よ。上。海。流。じ。ん。も。う。な。れ。や
 みる。入。幸。ふ。と。是。う。り。中。よ。す。ま。ま。そ。て。大。子。た。り。石
 の。川。あり。是。ま。ま。と。ゆ。え。う。つ。く。配。つ。と。垂。ろ。ふ。の。地
 志。経。ぬ。たり。し。と。ぞ。勝。元。政。務。乃。い。と。海。よ。に。帝。に
 け。奇。ふ。さ。ら。り。し。方。丈。よ。衣。て。他。中。の。系。と。係。ぬ。
 酒。衣。と。備。し。と。け。り。夏。乃。中。思。熱。の。指。ハ。志。び。く
 此。の。意。こ。し。適。遠。一。遊。智。の。人。と。志。り。を。き。た。い。し
 こと。し。ふ。衣。指。と。脱。す。て。あ。り。て。う。ふ。た。ら。と。衣。は。よ
 衣。入。く。あ。り。と。し。の。ぞ。志。が。く。わ。ま。く。こ。の。れ。と。遊
 係。し。て。あ。り。し。の。ま。ま。方。丈。よ。入。く。お。師。養。つ。り



まりりり。わがごとくし。所苦志たりとつひもあはれ
 泣きともし思ひ泣けてうげおろろ。もろくに年増ては。け
 盗賊の中一人。塙別小留。あや固ま。け始末とく
 つきろとたり。柵け。難。ハ。結えの。本。あ。く。の
 ころと。現。し。た。い。い。け。と。礼。ま。入。る。盗。賊。と。も。よ
 見。は。を。ら。ま。さ。ゆ。や。あ。さ。い。は。い。う。ら。れ。中。に
 ハ。魁。台。姥。懐。た。と。い。ふ。本。深。さ。悪。あ。い。あ。ま。い。べ。う。は。妖
 怪。の。生。類。も。あ。り。て。お。ろ。ろ。や。と。い。ふ

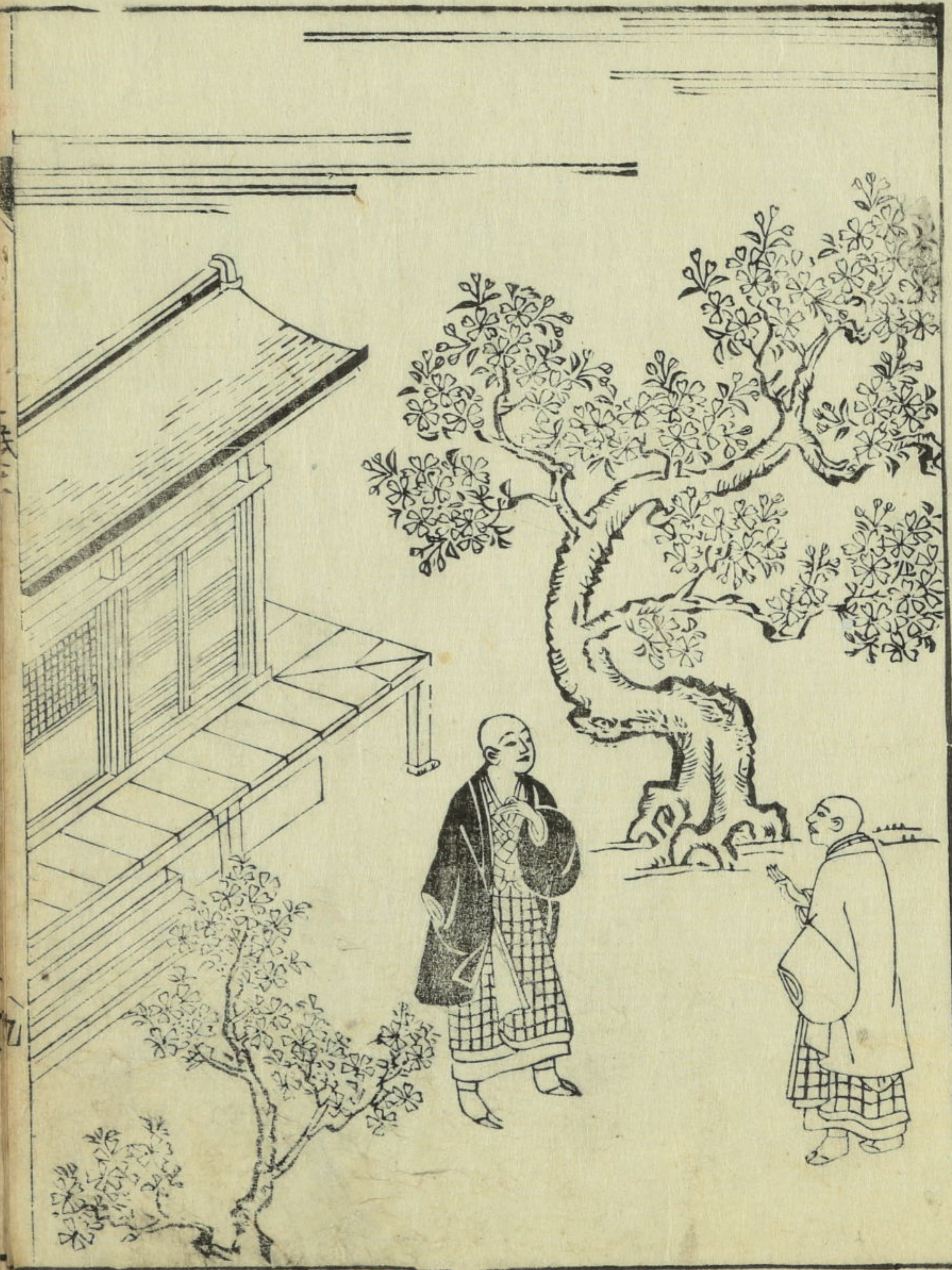
○ 葛子精霊

武州に戸半。は。清水。暇。智。と。い。ふ。漁。者。毎。日。生
 活。よ。ま。り。と。其。心。と。す。ま。ま。い。は。ね。り。と。い。ふ。は。い。は。ま。

うら入ていりぬら。本事あまも。年中。や。入。り。て。度
 念。と。つ。と。ま。し。補。給。と。な。げ。て。い。と。く。一。日。は。無。事。と。は
 ら。ま。い。ぬ。ふ。た。う。六。十。七。年。と。い。ふ。人。も。あ。り。し。た。と
 あり。と。い。ふ。は。う。く。年。月。と。撰。て。す。ま。ま。い。は。ね。り。と。い。ふ。は。い。は。ま。
 之。取。り。よ。た。ま。ま。い。は。ね。り。と。い。ふ。は。い。は。ま。相。對。す。り。と。い。ふ
 こと。に。ま。け。た。ぬ。は。人。皆。く。ま。り。て。い。て。名。馬。と。い。ふ。は。い。は。ま。
 々。か。う。と。い。ふ。も。あ。り。し。た。と。い。ふ。は。い。は。ま。あ。り。年。の。暮。の
 頃。あ。り。し。た。と。い。ふ。は。い。は。ま。あ。り。し。た。と。い。ふ。は。い。は。ま。
 志。が。く。く。と。い。ふ。は。い。は。ま。あ。り。し。た。と。い。ふ。は。い。は。ま。
 と。い。ふ。は。い。は。ま。あ。り。し。た。と。い。ふ。は。い。は。ま。あ。り。し。た。と。い。ふ。は。い。は。ま。
 け。り。し。た。と。い。ふ。は。い。は。ま。あ。り。し。た。と。い。ふ。は。い。は。ま。あ。り。し。た。と。い。ふ。は。い。は。ま。

ひとも経なくくれ多くよめりあふと後よ
大物と名づくせよなごりあて河カよたふなり
そかりと一はの名なりともや右馬の結いあな
がうまひ一時よほく極らまし極たらしし
ふふむいふたぐくふいむかよ熱トまらりかよ
く海人の渡もそものつらごとろくつらかゆい
とまあつゆふむと右馬の極らひむ村と柏木
名つけたりとくくくくくくくくくくくくく
よまごつちむちち花あつとい海一人の身と海門
つあつ海縁吟していつく
ひらつたつ花のうらや重り較

おつ江流は海人のゆきほくそまきく是と極つ
あつらふはほくそまきくはくはくはくはく
本のあふ幕とくせけつ人のあつとく
幕半ハすくくくくく花の下 白
眼をわくふはわくくくくくくくくくく
事といふ人くふけいゆきとくくくくくく
の海方くくくくくくくくくくくくくくく
らそくくくくくくくくくくくくくくく
かきつひすくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくく
らひあつあつくくくくくくくくくくく



湯不^や走^しぬ^ら何^んの^たら^も何^もも^{して}し^るを^ぞ
と^う何^かし^て

もし^らう^こあ^はら^うや^なん^て後^はも^も
ん^ご久^くま^んよ^幕と^打て^まさ^とを^わて^お入^り
し^いけ^く

花^はな^らん^どと^あら^うの^後 白
唯^ただ^いの^まと^まに^たて^しく^も何^れの^も
は^ら身^をと^すま^しけ^らふ^こう^に幕^あら^うの^際
た^らび^わて^海島^と橋^と花^と泳^じる^中の^時
乃^らう^たま^まぞ^うの^うり^あく^わて^何の^もの^みが^ら
ん^のあ^らい^げは^のた^らん^てら^いま^ま声^のた^れば

四^つや^もろ^ども^さあ^りれ^ば日^も 白

花^はな^らん^どと^あら^うの^後 白
中^のあ^らい^げは^のた^らん^てら^いま^ま声^のた^れば

昨^の夜^はい^まし^らう^きん^群集^乃あ^らう^てけ^し二^人と

見^える^たら^いた^らく^あま^まい^やと^二人^らう^けく
形^とけ^たれ^ば志^もた^らん^どと^あら^うの^後 白

何^どと^あら^うの^後 白
見^える^たら^いた^らく^あま^まい^やと^二人^らう^けく

お^まま^とら^んの^後 白
何^どと^あら^うの^後 白

何^どと^あら^うの^後 白

急懸寺のむらさきと色あつた。その中へうり
糸のそとをありと又折て時をくねもまどまら
ゆと

あくそめとけくめや花けりり 黒

つこもやまきと目とくねむの枝 白

恒電しつみ大と教さくゆとみく

あげらぬしけり垣なるさくられ 黒

室の急懸寺の名本垣ゆいゆりあそり人とを

けりしと色しけりにんせられ

ぶゆそふまいぬがしとれけりり 白

急の急懸寺の権をくく酒集しきるとみく

けりらに花の酒やかきとせん 黒
ふらぬおめとれむ見酒 白
むよ碎て唇持しなるや下り上り 黒
酒集する人のけりあまりの春のけりゆり 黒
さうそくはくしけりしけり人あつたの
飲んふりりて

興さしりかき先いかに花の碎 白

その内いりりりりみそとつともそりあ

わけしとたきけ

急いおろくく一に花の友 黒

急もろくくそとつともとけりり

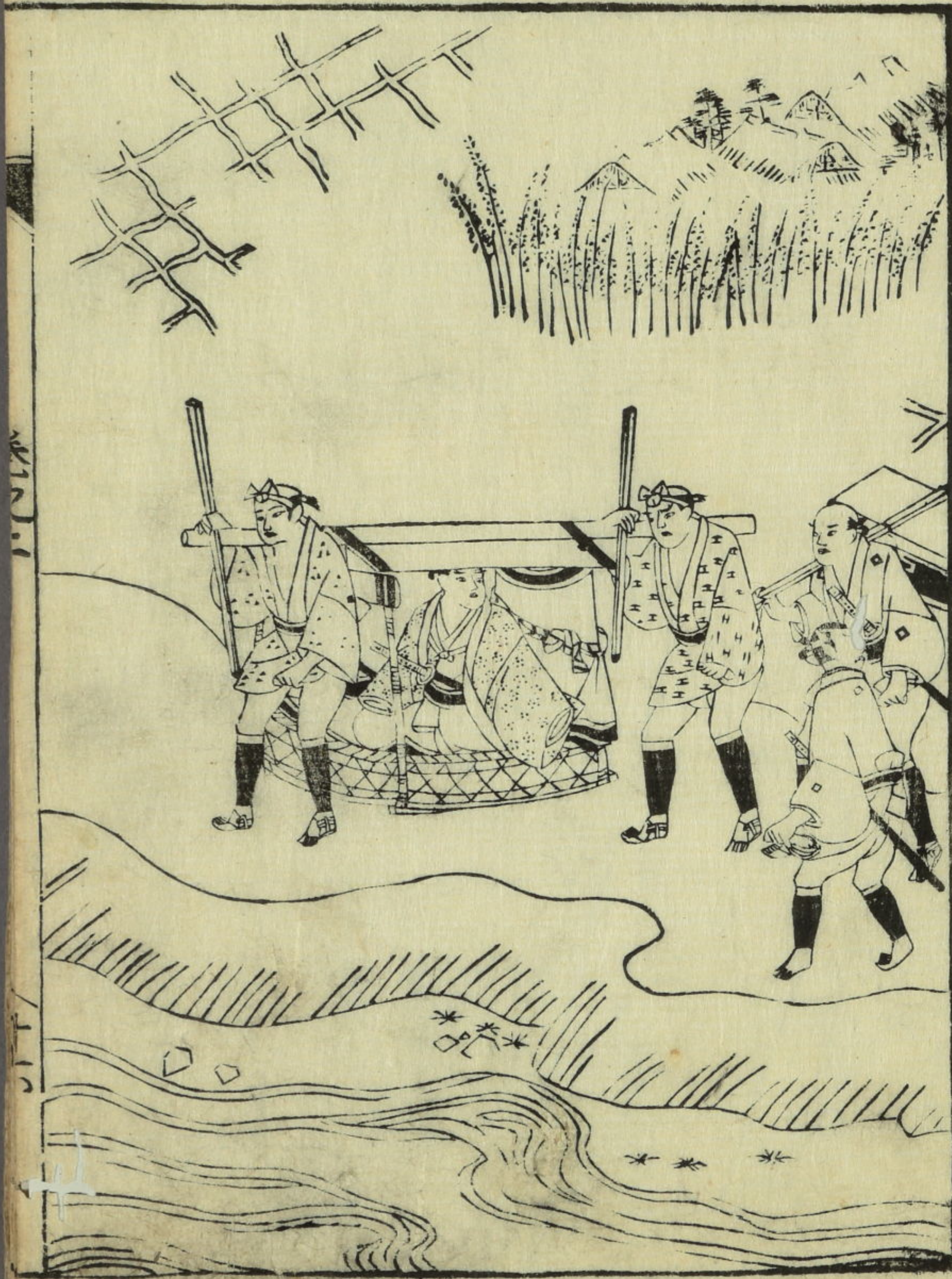
しきるその人よひりて

こころをそとへてはなはなる白雲か
 白
 何となく花の下よきなりけし枝とりていさづ
 くにを海りしれど人のふる目ねらげあしうら
 きんとつめ唯あつてこゝろだたくらんたるむね
 ば何となく海らんたらくも抑えしうらむね
 花の枝にゆきふりて切てそれ
 白
 とふ人よと縁しけしうら花のな
 黒
 らんとそは縁しけしうら花のな
 白
 ちえうらちや枝の樹をいよ
 黒
 花ののこがえうらん時えいどくきんとつめ
 黒

花の枝にゆきふりて切てそれ
 白
 とふ人よと縁しけしうら花のな
 黒
 らんとそは縁しけしうら花のな
 白
 ちえうらちや枝の樹をいよ
 黒
 花ののこがえうらん時えいどくきんとつめ
 黒
 花の枝にゆきふりて切てそれ
 白
 とふ人よと縁しけしうら花のな
 黒
 らんとそは縁しけしうら花のな
 白
 ちえうらちや枝の樹をいよ
 黒
 花ののこがえうらん時えいどくきんとつめ
 黒

一、舞乃たけの群集やむの山
 程や人まゝにおゝぬとたの山
 タゞふらひじふと花や葉どめ
 さいぜんらと昨夜が小僕花の陰よりお花
 びわくうらと。ふゆたふ人とうき声とわけて
 うべら。ほくおとらうさうをゆよほん。ゆふえ
 へつ海にうんせいに花候らるなるい。海にえく
 りらとまぬゆりわらうたれが。ほりわらうと好山人
 たのぐさ海くまきうら。海のみまきびくたなりぬ
 後もたうらとたけだぐ海海におしし。うらうらさ
 いぜんら二人乃たけ。こゝあひとらん。い。こたさ

一行の末のい。い。あまら無興はははれが
 舞乃極ハ極ゆると。花とんれ
 と海ド二人よ志あり。さふくても君さうい。たうら
 其の世とろれあらや。まも園基乃すうと
 りんめ。そのばと指す。まうし。二人うえて
 とうらうら。い。一人の海をうら。又
 一人の家をうら。海。取道乃ま。り。とたり。
 名と知。玄。知。向。い。ふ。穀。堆。山。莫。石。公。が。仙。術。と。志。し。
 又。その。ま。は。く。と。ま。る。ぶ。つ。に。り。年。餘。川。乃。名。山。を。ま
 岩。と。り。り。ま。の。わ。ら。う。と。仙。人。道。士。と。親。し。と。友。う。わ
 け。時。又。世。間。の。お。て。極。興。よ。ま。う。り。う。ら。う。ら。う。感。ず。う。お



卷之二

十五

高野和向とて情を乃名備うまをせらるり
佛は乃法海ありて教すてよわけんとす時海
是極大将様并しつら者大塚と年一来て
隆ももくく次さび夫と射け。前後左右
黄もまは新中乃ちのどくのぼるさやうり
多隆自害一多平世の終よ

付くもくはくんとくはく
如く海亦如電怒作如是観

け付一平一自害せりくく冷泉報友隆豊一思
致小幡守長黒川刑部少輔同部大進つ
民部少輔大田隠岐同部是を多ならけり

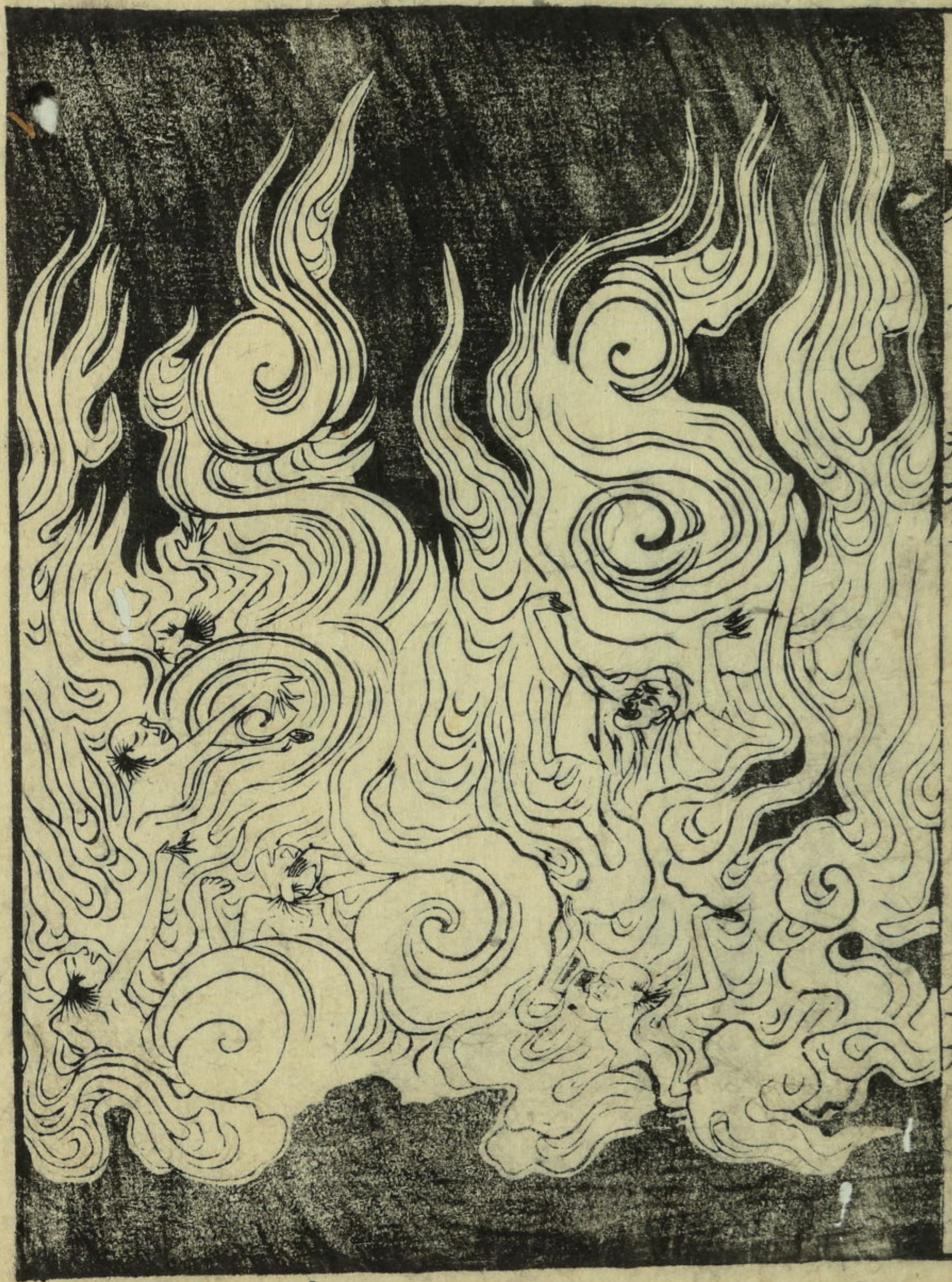
隆豊は指ささるその血とりて大寧寺此
のくりに平世の終末よ

かたりくはくもあつる中終よ
さきり海乃すもものうは

くくく海くもあつる多隆乃あ君七威り
たつとくまとがたけたりと極茶がもふけりて
出塞するそわとれたまはまはくはく大死
乃遊歴なきは果して隆豊の終世よとくは
も極がくも極は終末わらばまはくはく
くくに船田海もあつるもあつるが
くく海もあつるもあつるの終世よとくは

月二十日。石の付く生れゆくといふ。眞寔に
 此の事。尋常し。執人。志づく。眉とひそめ。み
 ぶ。抑よ。びり。いたん。ら。深。然。あ。て。ん。そ。く。と。し。り。
 姓。名。年。月。日。は。是。者。た。り。ま。ご。も。し。も。所。お。送。せ。ら。る。ふ。
 こ。ら。る。る。は。は。ら。り。ま。ご。い。じ。り。時。に。は。は。者。の。事。な。り。
 乞。志。う。た。な。が。く。使。を。を。め。は。ら。り。わ。ら。り。す。や。と。大
 る。が。ら。り。の。ふ。お。抑。ひ。ん。と。地。は。は。け。た。と。ま。入。て。の。
 指。と。指。え。した。ら。わ。ら。り。て。又。も。の。は。く。う。と。お。ね。
 徳。田。眞。寔。は。し。り。し。年。は。ま。ご。ま。ご。根。た。り。と。ま。ご。
 又。新。生。偷。盗。の。事。と。た。る。は。あ。れ。い。ま。と。ま。ご。
 一。と。ぬ。さ。び。人。何。ま。ご。一。と。た。げ。と。ま。ご。眞。寔。

あ。ら。り。ひ。て。ま。ご。に。た。ん。ら。い。た。ら。い。ま。け。地。ま。ご。ま。ご。
 よ。あ。ら。り。使。を。人。ま。ご。と。た。ん。ら。が。統。と。う。ま。ご。
 せ。り。は。ら。り。人。何。ま。ご。を。ん。そ。の。か。ま。ご。ふ。い。
 出。ま。い。が。だ。ん。ら。と。不。思。儀。の。極。ま。あ。て。こ。に。ま。
 こ。ま。ご。と。ま。ご。こ。は。ら。り。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。
 を。ま。ご。ひ。た。ら。り。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。
 せ。り。の。ふ。わ。り。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。
 幸。之。境。の。ま。ご。に。て。お。の。わ。や。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。
 て。は。山。の。浮。の。月。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。
 志。は。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。
 こ。い。け。の。権。乃。門。わ。り。誤。國。之。門。ら。り。額。ま。ご。ま。ご。



なまよりのふもくをいへてかとうりにはいあ
くしうそぞありなふをいひぐんたげさ
あまたらうりさいぜんのあつたをまきうりやく
改郷より色しよまのあびたは統の事つた
くは悔すも量たると大をうて叱つたの
とくしうらまふ飯田のいひとくしうらまふ
のまのそくをくかきしけら飯田のてりふか
つたれはあ人ありたてよ大をまきせんといふ
まうあまのうらまふをいひてあつたのいひ
はまたりんとりいひ事たりんとあ人あり

本兵

54



